

青森県の精神科病棟に勤務する看護師の 職業的アイデンティティの実態

三浦 広美

要旨

青森県内の精神科病棟に勤務する看護師の基本的属性と職業的アイデンティティの実態を把握することを目的として、2017年3月～6月に無記名自記式質問紙調査を実施した。分析は、記述統計、PISN 得点の差は t 検定、一元配置分散分析を用いて比較した。11 病院から研究協力の回答があり、374 名に質問紙を送付、有効回答者数は 236 名 (63.0%) であった。精神科病棟に勤務する看護師の実態調査から以下の点が把握できた。1. 対象者の平均年齢は、 42.25 ± 11.0 歳であり、臨床経験年数では「25 年以上」、精神科経験年数では、「6 年以上 10 年未満」が最も多かった。2. 日看協報告と比較して、「平均年齢」と「男性看護師」「既婚」「子どもあり」「准看護師」「准看護師養成所を最終学歴としている」割合が高かった。3. PISN 得点は、「既婚」「子どもあり」の看護師が有意に高かった。4. 「既婚」「子どもあり」の看護師が、職業的 ID が高い。

キーワード：精神科，看護師，職業的アイデンティティ

I. はじめに

2004 年に「精神保健福祉施策の改革ビジョン」が示され、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的方策を推し進めていくために、長期入院の退院促進、新たな長期入院の予防、地域定着支援などの施策が行われてきた。このような取り組みから、近年の新規入院患者のうち約 9 割は 1 年以内に退院し、平均在院日数も徐々に短くなっており、地域生活へ移行する長期入院精神障害者は確実に増えている。しかしながら新規入院の 1 割は 1 年以上の長期入院に移行する現実もあり、結果として長期入院精神障害者は約 20 万人も存在している。こうした現状を踏まえ、今後の保健医療福祉施策として、精神疾患患者の状態像や特性に応じた精神科病床の機能分化、退院後の地域生活支援の強化としてアウトリー

チや外来医療などを推進していくことが示されている。これらの状況に、精神科に勤務する看護師が応えていくためには、専門性を向上させていくことが不可欠と言える。

精神科看護において、一般社団法人日本精神科看護協会では、1995 年に精神科認定看護師制度を創設し、現在は 10 領域の専門的知識を網羅的に学習し、統合的に活用する能力を養っており、専門化は進展している。現在は 780 名余りの精神科認定看護師が誕生し、病院や地域と精神科認定看護師の活躍の機会が一層増え、精神科看護師の役割期待は増大している。

現在、看護の専門性を確立・向上させることに関連する鍵となる概念の一つに、職業的アイデンティティ（以下、職業的 ID）(グレック,2000)がある。職業的 ID は「看護師の思

考, 行動, および患者との相互作用を導く看護師の価値と信念」(Fagermonen,1997;グレック,2000)と定義されている。グレック(2002)は, 職業的 ID の概念を看護実践の基礎となる価値や信念として捉えることの重要性を指摘し, 職業的 ID を確立することは看護の質を向上させる一つの方法と位置付けている。岩井ら(2001)も同様に, 職業的 ID を高めていくことは看護師が専門職となるための必要不可欠な要素と述べている。このことから, 看護師の専門性の向上において, 職業的 ID に着目することは意義あることといえる。

精神科以外の診療科(以下, 一般科)に勤務する看護師を対象とした職業的 ID の研究(小谷野,2000;葛西ら,2005;葛西,2005)では, 年齢, 臨床経験年数, 職位といった基本的属性は職業的 ID を高める要因であることが報告されている。精神科看護師についても研究はされてきているものの, まだまだ少なく, 加えて, 本学が設置されている青森県において, 精神科看護師の職業的 ID については研究されていない。

そこで, 本研究では, 精神科看護の専門性向上のベースとして, 青森県内の精神科病棟に勤務する看護師の基本的属性と職業的アイデンティティの実態を把握することを目的とする。

II. 用語の定義

看護師の職業的アイデンティティとは, 「看護師の価値, 信念, 目標, 関心, 才能を含み, 看護師であることの意味や看護師として働くことの意味といった概念に関連した主観的な感覚」(竹渕ら, 2013)と定義する。

III. 研究目的

青森県内の精神科病棟に勤務する看護師の基本的属性と職業的アイデンティティの実態を把握する。

IV. 研究方法

1. 研究対象および調査方法

1) 調査対象

青森県内の社団法人日本精神科病院協会に加盟している精神科病院と県立の精神科病院, 精神科病棟を有する総合病院で, 研究目的に該当する単科の14精神科病院と県立の精神科病院, 7総合病院に勤務する看護師と准看護師とした。調査対象に准看護師を含めた理由は, 精神科病院で看護業務に従事する准看護師の割合が高い現状にあるためである。

2) 調査方法

無記名自記式質問紙による配票調査である。

青森県内の社団法人日本精神科病院協会に加盟している単科の14精神科病院と県立の精神科病院, 精神科病棟を有する7総合病院を対象とし, 病院の看護部長等の看護管理者, 必要に応じて病院長宛に調査協力依頼文(施設管理者用)と同意文書を郵送した。研究への同意の得られた病院の看護管理者もしくは病院長から同意文書を返送して頂き, その後, 同意のあった病院に, 質問紙と調査協力依頼文(研究協力者用)を郵送した。看護師への質問紙と調査協力依頼分布は, 看護管理者より精神科病棟師長を通じて行った。質問紙の回収は, 返信用封筒を用いて看護師本人から直接郵送して頂いた。

2. 調査期間

2017年3月から6月の期間に各病院に質問紙を配布し2週間後に回収を終了した。

3. 調査項目

1) 対象者の基本的属性

年齢, 性別, 婚姻, 子どもの有無と人数, 最終学歴, 看護職免許, 看護職免許以外の保有資格の有無とその内容, 臨床経験年数, 精神科経験年数, 職位を調査した。

2) 職業的アイデンティティ尺度

佐々木ら(2006)によって開発された職業

的アイデンティティ尺度 (The Professional Identity Scale for Nurses : PISN) を使用した。職業的アイデンティティ尺度 (以下, PISN) は, 看護職を対象に開発された尺度で, Cronbach 係数は 0.84 と高く, 開発者により信頼性は確認されている。第 1 因子「自尊感情」, 第 2 因子「連続性」, 第 3 因子「斉一性」, 第 4 因子「自己信頼」, 第 5 因子「適応感」の 5 つの下位尺度からなり, 全 20 項目から構成されている。尺度は「あてはまる」～「あてはまらない」の 5 段階評価を点数化し, 20 項目の合計得点を集計した。得点範囲は 20～100 点であり, 得点が高いほど職業的 ID が高いことを意味する。

4. 分析方法

対象者の基本的属性は, 対象をカテゴリデータに変換して記述統計を行い, 日本看護協会の 2017 年看護職員実態調査報告 (2018) (以下, 日看協報告) と比較した。PISN に関しては, 個人属性別の PISN 得点の差は t 検定, 一元配置分散分析を用いて比較した。統計ソフトは SPSS Version24 を使用し, 有意水準は 5%未満 ($p<0.05$) とした。

5. 倫理的配慮

看護管理者, 必要に応じて病院長に対し, 研究の主旨, 自由意思による研究参加と中断の自由, 不参加の場合でも, 勤務する病院での就労環境・雇用条件・享受する権利があるサービス等に関して何ら不利益を被らないこと, 匿名性の保持, データは研究者が所有する施錠可能なロッカーに保管すること, データは統計処理し研究目的以外に使用しないこと, 公表の仕方等について文書で説明し同意を得た。対象者個人に対しても, 同様の内容を記載した文書を質問紙に添付したものを配布して, 無記名による返信用封筒での質問紙の返信をもって同意とした。

なお, 本研究は放送大学研究倫理委員会の

承認を得て行った。また, PISN は, 著者からの許可を得て使用した。

V. 結果

1. 回収状況と対象者

青森県内の 11 病院から研究協力の回答があり, 374 名に質問紙を送付した。回収数は 283 名 (75.7%) であり, 全ての項目に欠損値のない有効回答者 236 名 (63.0%) を分析対象とした。

2. 対象者の基本的属性 (表 1)

1) 年代

「20 歳代」30 名 (12.7%), 「30 歳代」73 名 (30.9%), 「40 歳代」58 名 (24.6%), 「50 歳代」68 名 (28.8%), 「60 歳以上」7 名 (3.0%) であり, 平均年齢は 42.25±11.0 歳であった。

2) 性別

「男性」98 名 (41.5%), 「女性」138 名 (58.5%) であった。

3) 婚姻の有無

「既婚」157 名 (66.5%), 「未婚」79 名 (33.5%) であった。

4) 子どもの有無

「子どもあり」166 名 (70.3%), 「子供なし」70 名 (29.7%) であった。

5) 最終学歴

「准看護師養成所」35 名 (14.8%), 「高等学校専攻科」7 名 (3.0%), 「専門学校看護師 3 年過程」151 名 (64.0%), 「短期大学」17 名 (7.2%), 「大学 (看護系以外も含む)」19 名 (8.1%), 「その他」7 名 (3.0%) であった。

6) 保有看護職免許

「看護師」181 名 (76.7%), 「看護師+助産師」1 名 (0.4%), 「看護師+保健師」13 名 (5.5%), 「准看護師」41 名 (17.4%) であった。

7) 看護職免許以外の保有資格の有無

「保有資格あり」18 名 (7.6%), 「保有資格なし」218 名 (92.4%) であった。保有資格の内容は, 精神科認定看護師 (一般社団法人日本

表1 対象者の基本的属性

N=236

区分	人数 (%)
年代	20歳代 30 (12.7)
	30歳代 73 (30.9)
	40歳代 58 (24.6)
	50歳代 68 (28.8)
	60歳以上 7 (3.0)
性別	男性 98 (41.5)
	女性 138 (58.5)
婚姻の有無	既婚 157 (66.5)
	未婚 79 (33.5)
子どもの有無	あり 166 (70.3)
	なし 70 (29.7)
最終学歴	准看護師養成所 35 (14.8)
	高等学校専攻科 7 (3.0)
	専門学校看護師3年過程 151 (64.0)
	短期大学 17 (7.2)
	大学 ¹⁾ 19 (8.1)
	その他 7 (3.0)
保有看護職免許	看護師 181 (76.7)
	看護師+助産師 1 (0.4)
	看護師+保健師 13 (5.5)
	准看護師 41 (17.4)
看護職免許以外の保有資格	あり ²⁾ 18 (7.6)
	なし 218 (92.4)
臨床経験年数(年)	1年未満 3 (1.3)
	1年以上3年未満 11 (4.7)
	3年以上6年未満 22 (9.3)
	6年以上10年未満 23 (9.7)
	10年以上15年未満 41 (17.4)
	15年以上20年未満 22 (9.3)
	20年以上25年未満 31 (13.1)
	25年以上 83 (35.2)
	精神科経験年数(年)
1年以上3年未満 27 (11.4)	
3年以上6年未満 48 (20.3)	
6年以上10年未満 50 (21.2)	
10年以上15年未満 32 (13.6)	
15年以上20年未満 25 (10.6)	
20年以上25年未満 19 (8.1)	
25年以上 17 (7.2)	
職位	
	主任(係長・師長補佐)クラス 39 (16.5)
	師長 11 (4.7)

1) 大学には看護系以外も含む

2) 保有資格は、精神科認定看護師(一般社団法人日本精神科看護協会)、認定看護師・認知症認定看護師(公益社団法人日本精神科病院協会)、介護支援専門員、糖尿病療養指導士、臨床工学技士、透析技術認定士、養護教諭、その他である

精神科看護協会)、認定看護師(日本看護協会、認知症看護分野)、認定看護師・認知症認定看護師(公益社団法人日本精神科病院協会)、介護支援専門員、糖尿病療養指導士、臨床工学技士、透析技術認定士、養護教諭、その他であった。

8) 臨床経験年数

「1年未満」3名(1.3%)、「1年以上3年未

満」11名(4.7%)、「3年以上6年未満」22名(9.3%)、「6年以上10年未満」23名(9.7%)、「10年以上15年未満」41名(17.4%)、「15年以上20年未満」22名(9.3%)、「20年以上25年未満」31名(13.1%)、「25年以上」83名(35.2%)であった。

9) 精神科経験年数

「1年未満」18名(7.6%)、「1年以上3年

表2 基本的属性とPISN得点 N=236

区分	職業的ID		p値
	平均値 (SD)		
年代			0.133
20歳代	66.1 (6.4)		
30歳代	66.5 (11.4)		
40歳代	66.2 (9.3)		
50歳代	70.2 (10.6)		
60歳以上	71.3 (11.8)		
性別			0.692
男性	67.3 (9.6)		
女性	67.8 (10.7)		
婚姻の有無			0.041
既婚	68.6 (10.6)		
未婚	65.7 (9.4)		
子どもの有無			0.001
子どもあり	69.0 (10.3)		
子どもなし	64.1 (9.5)		
最終学歴			0.043
准看護師養成所	65.7 (8.7)		
高等学校専攻科	66.6 (15.0)		
専門学校看護師3年過程	68.3 (10.3)		
短期大学	69.7 (8.3)		
大学 ¹⁾	68.0 (8.2)		
その他	56.1 (15.9)		
看護職免許以外の保有資格			0.177
保有資格あり ²⁾	70.7 (10.2)		
保有資格なし	67.3 (10.3)		
臨床経験年数(年)			0.173
1年未満	66.3 (7.8)		
1年以上3年未満	67.5 (9.1)		
3年以上6年未満	65.3 (5.8)		
6年以上10年未満	66.1 (8.9)		
10年以上15年未満	65.7 (11.5)		
15年以上20年未満	68.2 (12.2)		
20年以上25年未満	65.0 (8.9)		
25年以上	70.4 (10.7)		
精神科経験年数(年)			0.362
1年未満	65.9 (9.9)		
1年以上3年未満	66.6 (10.3)		
3年以上6年未満	65.2 (8.9)		
6年以上10年未満	70.1 (10.3)		
10年以上15年未満	67.8 (13.4)		
15年以上20年未満	66.9 (10.2)		
20年以上25年未満	68.2 (8.6)		
25年以上	70.3 (9.0)		
現在の職位・役職			0.445
スタッフ	67.2 (10.7)		
主任(係長・師長補佐)	68.4 (8.7)		
師長	70.9 (8.6)		

1) 大学には看護系以外も含む

2) 保有資格は、精神科認定看護師(一般社団法人日本精神科看護協会)、認定看護師・認知症認定看護師(公益社団法人日本精神科病院協会)、介護支援専門員、糖尿病療養指導士、臨床工学技士、透析技術認定士、養護教諭、その他である

3) 2値はt検定、3値以上は一元配置分散分析

4) 多重比較はTukey法

未満」27名(11.4%)、「3年以上6年未満」48名(20.3%)、「6年以上10年未満」50名(21.2%)、「10年以上15年未満」32名(13.6%)、「15年以上20年未満」25名(10.6%)、「20年以上25年未満」19名(8.1%)、「25年以上」17名(7.2%)であった。

10) 職位 「スタッフ」186名(78.8%)、「主任(係長・

師長補佐) クラス) 39 名 (16.5%), 「師長」 11 名 (4.7%) であった。

3. 基本的属性と PISN 得点の関連 (表 2)

本研究対象者の PISN 得点は、 67.6 ± 10.3 であった。

1) 年代と PISN 得点

「20 歳代」 66.1 ± 6.4 点, 「30 歳代」 66.5 ± 11.4 点, 「40 歳代」 66.2 ± 9.3 点, 「50 歳代」 70.2 ± 10.6 点, 「60 歳以上」 71.3 ± 11.8 点であり, 得点に有意差は認められなかった。

2) 性別と PISN 得点

「男性」 67.3 ± 9.6 点, 「女性」 67.8 ± 10.7 点であり, 得点に有意差は認められなかった。

3) 婚姻の有無と職業的 ID 得点

「既婚」 68.6 ± 10.6 点, 「未婚」 65.7 ± 9.4 点であった。婚姻の有無と得点には有意差が認められ ($p < 0.05$), 「未婚」よりも「既婚」の方が有意に高い得点を示していた。

4) 子どもの有無と職業的 ID 得点

「子どもあり」 69.0 ± 10.3 点, 「子どもなし」 64.1 ± 9.5 点であった。子どもの有無と得点には有意差が認められ ($p < 0.01$), 「子どもなし」よりも「子どもあり」の方が有意に高い得点を示していた。

5) 最終学歴と PISN 得点

「准看護師養成所」 65.7 ± 8.7 点, 「高等学校専攻科」 66.6 ± 15.0 点, 「専門学校看護師 3 年過程」 68.3 ± 10.3 点, 「短期大学」 69.7 ± 8.3 点, 「大学」 68.0 ± 8.2 点, 「その他」 56.1 ± 15.9 点であり, 最終学歴 (水準) 間において得点に有意差が認められた ($p < 0.05$)。Tukey 法を用いた多重比較によれば, 「その他」と「専門学校看護師 3 年過程, 短期大学」の間に有意差が認められ, 「看護師養成所 3 年過程」「短期大学」はその他に比べて有意に高い得点を示していた。

6) 看護職免許以外の保有資格の有無と PISN 得点

「保有資格あり」 70.7 ± 10.2 点, 「保有資格

なし」 67.3 ± 10.3 点であり, 得点に有意差は認められなかった。

7) 臨床経験年数と PISN 得点

「1 年未満」 66.3 ± 7.8 点, 「1 年以上 3 年未満」 67.5 ± 9.1 点, 「3 年以上 6 年未満」 65.3 ± 5.8 点, 「6 年以上 10 年未満」 66.1 ± 8.9 点, 「10 年以上 15 年未満」 65.7 ± 11.5 点, 「15 年以上 20 年未満」 68.2 ± 12.2 点, 「20 年以上 25 年未満」 65.0 ± 8.9 点, 「25 年以上」 70.4 ± 10.7 点であり, 得点に有意差は認められなかった。

8) 精神科経験年数と PISN 得点

「1 年未満」 65.9 ± 9.9 点, 「1 年以上 3 年未満」 66.6 ± 10.3 点, 「3 年以上 6 年未満」 65.2 ± 8.9 点, 「6 年以上 10 年未満」 70.1 ± 10.3 点, 「10 年以上 15 年未満」 67.8 ± 13.4 点, 「15 年以上 20 年未満」 66.9 ± 10.2 点, 「20 年以上 25 年未満」 68.2 ± 8.6 点, 「25 年以上」 70.3 ± 9.0 点であり, 得点に有意差は認められなかった。

9) 職位と PISN 得点

「スタッフ」 67.2 ± 10.7 点, 「主任 (係長・師長補佐) クラス」 68.4 ± 8.7 点, 「師長」 70.9 ± 8.6 点であり, 得点に有意差は認められなかった。

VI. 考察

1. 精神科病棟に勤務する看護師の基本的属性

本研究対象者の年代は「30 歳代」が最も多く, 次いで「50 歳代」, 「40 歳代」で全体の 8 割を占め, 平均年齢は 42.25 ± 11.0 歳であった。日看協報告の平均年齢 (41.5 歳) と比較すると, 0.7 歳高かった。本研究対象者の年代は, 20 歳代の割合が低く, 日看協報告と同様であった。

「男性」の看護師の割合 (41.5%) を日看協報告 (6.2%) と比較すると, 約 7 倍高かった。

「既婚」の割合 (66.5%) は, 日看協報告 (59.5%) よりも高い割合を示していた。

「子どものあり」の割合 (70.3%) は, 日看協報告 (60.1%) よりも高い割合を示していた。最終学歴は, 「専門学校看護師 3 年過程」が

6割強を占め、「高等学校専攻科」は1割も満たず、「准看護師養成所」は1割強、「短期大学」、「大学」を合わせて2割弱であり、「専門学校看護師3年過程」の卒業が多かった。本研究対象者の最終学歴は、「准看護師養成所」14.8%であり、日看協報告の4.1%よりも高い割合を示していた。また、「短期大学」、「大学」合わせて15.3%であり、日看協報告の29.7%よりも低い割合を示していた。

「保有看護職免許」における「准看護師」の割合(17.4%)を日看協報告(4.1%)と比較すると、約4倍高かった。

臨床経験年数では、「25年以上」が最も多く、次いで「10年以上15年未満」であり、10年以上の臨床経験を持つ看護師が全体の7割を占めていた。また、精神科経験年数では、「6年以上10年未満」が最も多く、次いで「3年以上6年未満」であったが、10年以上の精神科経験を持つ看護師も約4割占めていた。これらのことから、本研究対象者は、看護師としての経験年数が長いことがうかがえた。

以上のことから、本研究対象者は、日看協報告との比較において、「平均年齢」と「男性看護師」「既婚」「子どもあり」「准看護師」「准看護師養成所を最終学歴としている」割合が高く、看護師としての経験年数が長いことも明らかになった。

2. 基本的属性とPISN得点の関連

本研究対象者PISN得点は、一般科看護師も対象とした関根ら(2015)の研究結果(68.1±11.7点)よりも低い得点であった。しかし、本研究対象者PISN得点は、精神科看護師を対象とした糠信ら(2007)の研究結果(64.0±11.1点)と関根ら(2015)の研究結果(66.5±11.0点)よりも高い得点であった。このことから、本研究対象者は糠信ら、関根らの対象とした精神科病院に勤務する看護師と比較し、PISN得点が高いことが示唆された。

本研究対象者の基本的属性において、「婚姻

の有無」「子どもの有無」とPISN得点の間に有意差が認められた。先行研究からは、PISN得点に関連する要因として基本的属性が指摘されているが、本研究結果においてはこれを支持する結果となった。したがって、本研究対象者において、基本的属性において、「婚姻の有無」「子どもの有無」はPISN得点に関連する要因であることが示唆された。

竹渕ら(2013)が考察しているように、本研究の調査に使用したPISNは、「自尊感情」「連続性」「斉一性」「自己信頼」「適応感」の5つの下位尺度からなり、構成概念妥当性の検討結果より、「適応感」の相関係数が0.72($p<0.01$)と、PISNと最も相関のある尺度である。そして、適応感とは、「看護師という職業が自分に合っているという感覚」(佐々木ら,2006)と定義されている。また、佐々木ら(2006)が構成概念妥当性の検討で使用した適応度意識(柳井,1973)の項目は、自分の専門分野である看護という職業に対してどの程度適していると感じているかを測定するものである。このことから、本研究対象者は、精神科看護が看護師である自分に適しているという感覚を持っていることが示唆される。現在配属されている部署への適応感との関連を検討した研究からは、現在の配属場所に適していると感じている者の職務満足度が、適していないと感じている者より有意に高いと報告されている(高田ら,1995;田島ら,1998;中山ら,2001)。これらのことから、就業環境への適応感や職務満足度が精神科看護師の職業的IDに関連する要因であることが考えられた。ただし、就業環境への適応感については、精神科看護の特徴を捉え、良い点(魅力ややりがいを感じる点)と悪い点(魅力ややりがいを感ぜない点、困難感、否定的体験)双方の要素を踏まえた項目を検討して調査することが必要と考える。

VII. おわりに

青森県内の精神科病棟に勤務する看護師の

実態調査から以下の点が把握できた。

1. 対象者の平均年齢は、42.25±11.0 歳であり、臨床経験年数では「25 年以上」、精神科経験年数では、「6 年以上 10 年未満」が最も多かった。
2. 日看協報告と比較して、「平均年齢」と「男性看護師」「既婚」「子どもあり」「准看護師」「准看護師養成所を最終学歴としている」割合が高かった。
3. PISN 得点は、「既婚」「子どもあり」の看護師が有意に高かった。
4. 「既婚」「子どもあり」の看護師が、職業的 ID が高い。

VIII. 本研究の限界と今後の課題

本研究では、青森県内の精神科病棟に勤務する看護師を対象に基本的属性と PISN 得点を調査した。調査に使用した PISN は、一般科の看護師を対象に作成された尺度であり、精神科領域での活用は少なく、今回の結果と比較するには限界があった。

本研究より、適応感や職務満足度と職業的 ID の関連が考えられた。就業環境への適応感や職務満足度と職業的 ID の関連を検討することが今後の課題と考える。

謝辞

本研究にあたり、ご協力くださいました病院および看護職の皆様にご心より深謝申し上げます。

引用文献

Fagermonen.MS.Professionai identity (1997):values embedded in meaningful nursing practice,Journal of advanced Nursing,25:434-441.

グレック美鈴(2000):看護における 1 重要概念としての看護婦としての職業的アイデンティティ,Quality Nursing,6(10):53-58.

グレック美鈴(2002):看護師の職業的アイデン

ティティに関する中範囲理論の構築,看護研究,35(3):196-204.

岩井浩一,澤田雄二,野々村典子他(2001):看護職の職業的アイデンティティ尺度の作成,茨城医療大学紀要,6 : 57-67.

葛西敦子(2005):病院に勤務する看護師の専門性の実践に関する研究,弘前大学教育学部紀要,94:91-103.

葛西敦子,大坪正一(2005):看護職の専門性を構成する概念,弘前大学教育学部紀要,93:89-96.

中山洋子,野嶋佐由美(2001):看護研究の現在現状を変える視点(3) 看護婦の仕事の継続意欲と満足度に関する要因の分析,看護,53(8):81-91.

日本看護協会(2018):2017 年看護職員実態調査,日本看護協会調査研究報告,No.92.

糠信憲明,中村百合子,大沼いづみ他(2007):精神疾患へのスティグマと看護師の職業的アイデンティティ 精神看護師と一般科看護師の比較,広島国際大学看護学ジャーナル,5(1):27-37.

小谷野康子(2000):看護専門職の自律性に関する概念の検討と研究の動向,聖路加看護大学紀要,26:50-58.

佐々木真紀子,針生亨(2006):看護師の職業的アイデンティティ尺度 (PISN) の開発,日本看護科学会誌,26(1):34-41.

関根正,竹渕由恵,酒井美子他(2015):精神科看護師の職業的アイデンティティへの影響要因—他科看護師との比較から—,日本精神保健看護学会誌,24(1):75-82.

高田貴美子,草刈淳子,川口孝泰(1995):S 大学医学部附属病院に勤務する看護婦の職務満足に関する検討,日本看護研究学会雑誌,18(1): 53-62.

竹渕由恵,酒井美子,関根正他(2013):A 県の精神科看護職者の職業的アイデンティティの実態,群馬県立県民健康科学大学紀要,8: 81-88.

田島和子,出水玲子,田畑節子他(1998):看護婦の職務満足に関する検討 K 大学病院付属病院におけるアンケートより,日本看護研究学会雑誌,21(3): 195.

柳井晴夫(1973):適正診断における診断方式の検討(Ⅱ),教育心理学研究,2(3),12-23.

執筆者紹介 (所属)

三浦 広美 八戸学院大学 健康医療学部 看護学科 助教